

令和7年1月6日

各位

令和6年度第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会
「ウインターカップ2024」について（お礼）

謹啓 新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より長工バスケットボール部の活動に関しまして、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび昨年11月に行われました令和6年度第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会長崎県予選会で優勝し、2年ぶり3度目のウインターカップに出場することができました。全国大会は、令和6年12月23日（月）から東京体育館で行われ、1回戦は和歌山県代表の和歌山南陵高校に勝利し、2回戦は石川県代表の北陸学院高校と対戦しました。試合結果につきましては、報道機関等で既にご存じのことと思いますが、別紙の長崎新聞社の記事にて、はなはだ簡単ではございますがご報告に代えさせていただきます。

このように活躍することができましたのも日頃より皆様のご理解ご協力あつてのことと、深く感謝申し上げます。また、大会出場に際しまして物資両面にわたりご支援、ご協力いただき、誠にありがとうございました。ご協力いただきました支援金等につきましては、選手の活動費として大切に使用させていただきました。本来であれば直接ご挨拶に伺うべきところですが、書面にてお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

最後になりますが、この貴重な経験を糧に、次の新しい景色を見るために部員一同さらに精進して参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

長崎県立長崎工業高等学校バスケットボール部
関係者一同

ウィンターカップ高校バスケット

男子 長崎工 2回戦敗退

バスケットボールの第77回全国高校選手権(ウィンターカップ) 第3日は26日、東京体育館で男子の2回戦16試合と女子の3回戦8試合が行われ、長崎県勢は男子の長崎工が北陸学院(石川)に71-129で敗れた。

北陸学院に71-129

長崎工は第1クォーターで15-41と大きくリードを許すと、第2クォーターも5分までに連続失点。北陸学院の組織的な攻撃を止められず、前半だけで13本の3点シュートを決められた。49-103で入った第4クォーターはガード田川、フォワード福地を軸に持ち味の堅守速攻で22点を奪った

が、点差を縮められなかった。男子は、今夏の北部九州インターハイを制した東山(京都)が九州学院(熊本)を81-53で下して3回戦に進出。女子はインターハイ王者で3連覇を狙う京都精華学園が聖カタリナ学園(愛媛)に101-56で大勝し、準々決勝に進んだ。このほか、鶴学園(山形)、昭和学院(千葉)、岐阜女、桜花学園(愛知)、精華女(福岡)、慶誠(熊本)、大阪薫英女学院が8強入りした。第4日は26日、同体育館で男子の3回戦8試合と女子の準々決勝4試合を実施する。

(小川裕志)

北陸学院	129
長崎工	71
スコア	26303241
会場	22161815

【評】総合力で上回る北陸学院が快勝した。長崎工も最後まで諦めずに戦ったが、U18北信越リーグ王者との力の差は大きかった。長崎工は序盤から北陸学院のオールコートプレスに苦戦。前半だけで15回もターンオーバーをするなど、なかなか攻撃のリズムをつくれなかった。苦しい状況の中で、フォワード福地が21得点、ガード田川が14得点と、3年生2人が意地を見せた。北陸学院は攻守で隙がなかった。点差が開いても攻撃の手を緩めなかった。



【男子2回戦、北陸学院-長崎工】第2クォーター5分、長崎工のフォワード福地がシュートを決め、19点目

東京体育館

初の全国2勝には届かず

夏冬通じて初の全国2勝には届かなかった。男子の長崎工は、U18北信越リーグ王者の北陸学院(石川)に71-129で完敗。試合後、選手たちは肩を落としたが、寺田監督は「精いっぱい、彼ららしく諦めずにやってくれた」と力を出し切った選手たちをたたえた。

ロッカールーム

190センチのセンターを筆頭に平均身長が約10センチ高く、彼ららしく諦めずにやってくれた。第1クォーターだけで、15-41と大きくリードを許した。その後も点差が広がっていく展開の中で、フォワード福地は自分たちがやってきたことをしっかりと出せば、点差は縮まってくる」と自分に言い聞かせた。第2クォーター6分の19-61から、ガード米倉と2人で連続8得点。必死に食らいついた。敗れはしたが、大会約10日前に左手小指を骨折しながら、痛み止めを飲んで出場した福地は3年生は、最後まで長崎工から

【男子2回戦、北陸学院-長崎工】第4クォーター3分、長崎工のガード田川がゴール下に迫る 東京体育館



ひと言

◆長崎工-寺田監督
ディフェンス力、シュート力、全てにおいて向こうの方が上だった。福地は1回戦で調子が悪かったが、2回戦はいい顔をして戦ってくれた。

◆ガード田川連太郎(3年) 最後、みんなが諦めてくれたボールを決めきれないのは自分の弱さ。チームを勝たせなければいけないのに、それができなくて申し訳ない。寺田監督を信じてこれからも戦っていつてほしい。

◆ガード中村太陽(3年) 3年生はポジションで明るくチームを引っ張って、それとバスケットが良かった。新チームも高きはないが、また戻って来られるように頑張りたい。

ホープ渡辺 守備で貢献

福岡大 渡辺大蔵

「走るバスケット」を体現した。初の「冬の全国1勝」という新たな歴史もつくれた。足跡は確かに残した。

この経験を後輩たちが、どうつないでいくか。この日チーム最多の21得点と活躍した福地は「長崎工の歴史を自分たちは塗り替えた。後輩たちにはもう1勝してほしい。」代表活動中は、パリ五輪で主力だった吉井三連から助言をもらい、守備をハードにやり、全体的攻撃リワードに飛び込むことを学んだ」という。昨年は準優勝。「一戦必勝で日本一を目指すと願った。燃やした。